

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23401051

研究課題名(和文) インド音楽・舞踊のグローバル化に関する総合的研究

研究課題名(英文) Globalization of Indian Music and Dance

研究代表者

寺田 吉孝 (Terada, Yoshitaka)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号：00290924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円、(間接経費) 1,290,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル化による大規模な人の移動に伴い、インドの音楽・舞踊は世界各地で上演・教授されるようになった。特に、1960年代以降に欧米に移住したインド人たちは、多文化主義的なホスト社会における自文化継承の要として、インド音楽・舞踊の実践を推進しており、彼らの豊かな経済力を背景に、インド国内の音楽・舞踊文化にも大きな影響を与え始めている。また、インターネットの普及は、インドと在外コミュニティの恒常的な交流を可能にしており、グローバルなネットワークの中で実践される音楽や舞踊は、演じられる音や動きなどの芸術的側面と、演奏者間の序列やパトロンとの関係などの社会的側面の両面において本質的に変容している。

研究成果の概要(英文)：Indian music and dance are globally practiced today as the increasing number of Indians and other South Asians reside outside of their home regions. Especially, Indians who migrated to Europe and North America since the 1960s patronize Indian music and dance actively as a primary means to transmit Indian customs and cultural values. With their newly acquired wealth, they also began to influence performing arts culture in India. The internet technology has also enabled continuous and ongoing interaction between India and diasporic communities. Indian music and dance, as practiced in such global network, have changed fundamentally, both in terms of artistic content and social organization that has supported it.

研究分野：人文学A

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：芸能 芸術

### 1. 研究開始当初の背景

インドの音楽・舞踊文化は、1990年代から急激に変化してきている。その変化は、上演形態・演目・使用楽器などの音楽的側面だけではなく、音楽や舞踊を支えてきた経済基盤や演奏家・パトロン間の社会関係にも如実に現れている。このような変化の背景には、グローバル化に伴う大規模な人の移動があり、特に近年世界的に注目されているIT産業などに携わる富裕層の移動・移住は、国の内外を問わずインド音楽・舞踊の実践に大きな影響を与えている。その中でも、欧米における在外インド人(Non Resident Indians = NRI)などの急激な増加が決定的に重要である。各地に形成されたNRIコミュニティでは、インド起源の音楽や舞踊が頻繁に上演され教授されている。インド音楽・舞踊は、移民一世の母国文化に対するノスタルジーを癒すだけでなく、インド国外で生まれた2世たちにインド文化を伝える重要な手段ともなっている。このような国外での需要の高まりに伴い、インド在住の音楽家・舞踊家の海外公演が飛躍的に増大した。また、活動拠点をインド国外に移したり、複数の拠点をもちノマド的音楽活動を展開する者も増加している。

### 2. 研究の目的

本研究では、インド音楽・舞踊の現代的展開と変容をグローバル化との関連で考察するために、インド国内における音楽変容と、インドにおける音楽・舞踊文化に大きな影響力をもつ在外インド系コミュニティにおけるインド音楽・舞踊の実践を関連づけて考察する。地域間を結ぶ個人・団体の特定、かれらの活動内容や交流の実態の把握、音響としての音楽への影響に関する考察をおこなう。音楽・芸能における変化は内的要因だけではなく、グローバル化を背景とする音楽・舞踊文化の変質がその主要因になっている点を具体的に示すことができると考える。

本研究は、代表者による南インド古典音楽の研究蓄積を土台にしなが、研究分担者・協力者が専門とする北インド古典音楽や南北の古典舞踊を調査対象に加え、インド音楽・舞踊とグローバル化との複合的な関係を包括的・総合的に考察することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究では、全年度を通じインド国内(チェンナイ、デリー、ジャイプル)における動向調査を継続し、インドの音楽・舞踊の進出がとくに顕著である在外地域(カナダ、シンガポール)の現地調査を、並行して実施した。インド音楽・舞踊のグローバル化を全方向的に調査することは不可能なため、メンバーのこれまでの研究対象に基づいて、インドーカナダ、インドーフランス、インドーシンガポールの3つの移動軸を選定し、概ねこの軸に沿って移動しながら音楽活動を行う個人、

団体を同定した上で、彼らの音楽活動への参与観察とインタビューを実施し、関連資料(CD、DVD、公演プログラム、写真、広報用ブックレットなど)を収集した。

(1) [2011年度] カナダ・トロント、南インド・チェンナイ、北インドのデリーおよびラジャスタン州ジャイプルで現地調査を行った。トロントでは、同市を代表する2つのインド系舞踊グループ(インダンスとチャンダム舞踊団)の活動について実態調査を行なった。インダンスは南インドの古典舞踊バラタナーティヤムの古伝統の復活と他ジャンルとの現代的な融合を同時に推進する舞踊団であるのに対し、チャンダム舞踊団は北インドの古典舞踊カタックを専門とする舞踊団である。インドでは、南インド音楽の中心地であるチェンナイにおいてインド在住の音楽家・舞踊家とNRI間のネットワークの実態調査をおこなった。デリーでは、カラーシュラム・カタック学院においてインタビューと舞踊指導の実態を調査した。当学院の創設者であるビルジュ・マハラージュは、カタックのグローバル化に大きく貢献した著名舞踊家であり、彼のこれまでの活動を詳細に記録する契機を得たことは大きな収穫であった。ジャイプルでは、多ジャンルの演奏家を傘下におくコンソーシアムの芸能集団「ラジャスタン・ルーツ」の活動について調査をおこない、現地の演奏家たちを海外音楽市場に送り出すシステム・戦術について理解を深めた。

(2) [2012年度] 南インド・チェンナイ、北インド・ラジャスタン州ジャイプル、シンガポールで現地調査を行った。チェンナイでは、毎年12月から1月にかけて開かれる音楽・舞踊祭に参加し、国外在住のインド系音楽家、舞踊家の公演活動の実態について調査をおこなった。ジャイプルでは、前年度調査を開始したグローバルな活動を展開する芸能集団「ラジャスタン・ルーツ」について追加調査をおこなうとともに、古典音楽の伴奏を世襲的職業としてきたカーストに属する演奏家、関係者に聞き取りを行い、グローバル化を背景とした音楽ジャンルと社会関係の変化に関する情報を収集した。シンガポールでは、インド系コミュニティの音楽芸能実践について現地調査をおこなった。現地におけるインド音楽の演奏、教授を精力的に推進してきたバスカル芸術院、シンガポール・インド芸術ソサエティ、シンガポール・インディアン・オーケストラなどの関係者に、活動の実態や国外のインド系コミュニティとの人的ネットワークに関する聞き取り調査を行った。

(3) [2013年度] カナダ・トロント、北インド・ラジャスタン州ジャイプル、シンガポールで現地調査を行った。トロントでは、スリランカ系タミル人の積極的な関与の背景と音

楽・舞踊に及ぼす芸術的、社会的影響について、主に舞踊公演への参与観察と関係者への聞き取り調査から検討した。ジャイプルではフランスとインドを往来する音楽家の活動に焦点をあて、世界的な均質化と地域的な多様化が同時に進行する世界でのインド音楽の再生産をめぐる問題についてローカルでミクロな視点から検討した。シンガポールでは、20世紀の同国におけるインド芸能の伝播と培養、変容と発展について資料を収集した。文献資料と舞踊家のライフヒストリーの聞き取りから、シンガポール発のインド音楽・舞踊・演劇が国内外で積極的に公演されており、インドとの交流が実演家レベルで盛んに進められている実態を明らかにした。

#### 4. 研究成果

##### チェンナイ - トロント軸

トロントは北米有数の南アジア系集住地域であり、音楽・舞踊の活動も極めて盛んである。市内には、民族音楽研究で知られるトロント大学、ヨーク大学があり、この2校の教員の研究者・演奏家としての活動は、北米におけるインド音楽・舞踊の紹介・普及に大きく貢献してきた。1990年代以降、同市の南アジア系コミュニティが急激に増大するにつれて、インドとの双方向的な交流（インドからの公演ツアー、演奏家の移住、ディアスポラ演奏家のインド音楽舞踊祭への参加など）が顕著になった。今回の研究から、本研究が焦点を当てた南インドの古典音楽・舞踊を最も活発に実践しているのは、スリランカから難民として移住したタミル人であることが明らかになった。カナダでの永住を決意した彼らは、ホスト社会における永続的な自文化継承の核として南インド音楽・舞踊を位置づけているため、学習率が極めて高い。また、学習者のデビュー公演である「アランゲートラム」は、結婚式と並んで、コミュニティ内での力関係や地位が交渉されるイベントとしても重要であり、多額の資金を投じる傾向は過熱傾向にある。学習者人口が増えるにつれ、プロを目指す若者も増加しており、彼らが積極的にインドでの演奏機会を模索する実態を把握することができた。また、舞踊人口の増加は伴奏者である音楽家の需要を増大させている点も重要である。

トロントには、インドにおける古典舞踊の継承を目的に活動するグループのほか、他ジャンルとの融合により古典の現代的展開を模索する舞踊団も存在する。在外アーティストの活動に対するインドにおける反応を調査する過程で、実験的な音楽・舞踊の実践がインドとホスト社会の双方において社会変革の場の一つとなっている点を確認することができた。また、トロントで活動する舞踊家の大多数は、多様な経路で同市に移住した南アジア系移民であり、彼らの移民体験が舞

踊団への参加と深い関係を持っているだけでなく、舞踊団の活動形態、演奏スタイルがカナダ、インドを含む複数地域間の往来の中で形成されている実態が明らかになった。

##### インドーシンガポール軸

東南アジア有数の商業都市であるシンガポールには、古くから南インド系移民が数多く暮らしており、インドの音楽・舞踊も20世紀前半から伝播している。近年では、シンガポール発のインド音楽、舞踊などが国内外で積極的に上演されており、インドとの演奏者レベルの交流も盛んに行なわれている。インドー欧米間の演奏者の移動が盛んになるにつれ、その中継地であるシンガポールは、両者のネットワークに組み込まれるようになり、多国籍の演奏者によるコラボレーションや創作活動も行われている。

本研究では、マラヤーリー（南インド・ケーララ州出身者の俗称）舞踊家のライフヒストリーを通して、20世紀のシンガポールにおけるインド芸能の伝播と培養、変容と発展について検証するとともに、グローバル時代における人の移動と舞踊様式の多様化について考察した。シンガポールにおけるインド芸能の伝承・発展に多大な貢献をした故K・P・バスカル（1925-2013）は、幼少時から舞踊に興味を持ち、ケーララ州の舞踊劇であるカタカリを学んだ。その後、高名な舞踊家であったウデイ・シャンカルとの出会いが契機となり、マドラス（現チェンナイ）に移住し、そこで多種多様な舞踊に触れるとともに、著名ロシア人舞踊家アンナ・パヴロヴァの知遇を得た。第2次世界大戦中には英領インド軍の慰安舞踊団に加わり、世界各地を訪問した。バスカルはこのような経験から多文化的でグローバルな視点を身につけ、インドにおける古典舞踊の歴史や現状に関して、批判的な検討を加えるようになった。トロントに本拠をおく南アジア系舞踊団インダンスとの協働で、上位カーストにより改変され、衰退した寺院奉納舞踊の伝統を現代に再現する公演を行ったのはその具体例である。上位カースト集団が支配するチェンナイの舞踊界は、歴史の読み替えに対して極めて敏感であり、上記のような公演をチェンナイに拠点を持つ個人・舞踊団が継続することは極めて困難である。対抗的な舞踊文化の形成を試みるインド人舞踊家が国外に活動の場を求め、そこでバスカルのような多文化的環境で育ったインド系アーティストと協働することから新しい形式が創りだされ、それらが海外グループのオーラとともにインドに環流することで、限定的ではあれインドの音楽・舞踊界にも意識変革をもたらしている。

シンガポールは独自の多文化的環境をもち、実験的なパフォーマンスを行なうアーティストを数多く輩出してきた。前述の南アジア系舞踊団インダンスも、シンガポール出身の舞踊家ハリ・クリシュナンによって設立さ

れた。シンガポールの多民族的文化政策は、移民二世たちによるハイブリッドな様式が生成される土壌を作ったと考えられる。

#### インド - フランス軸

フランス・インド間を往復するインド人音楽家のミクロな活動について具体的な情報を蓄積するために、1980年代前半に北インド・ラジャスタン州のジャイプルからフランスの地方都市アンジェに渡った、当時無名のムスリム世襲音楽家ハミード・ハーンの音楽活動を事例として、移民演奏家たちが与えたホスト社会と母国への影響について考察した。海外におけるインド音楽への関心の高まりを背景にして、インド国内のローカルな社会関係の中で劣位に置かれてきたムスリムの世襲音楽家の中から、自らの演奏活動の場を求めて1980年代に海外に移住した者が出現した。これらの世襲音楽家たちは、インドと海外を往復し、先進社会でインドの伝統音楽・舞踊を異文化として披露したり、海外の音楽家たちとのセッションを通じて外貨を獲得すると同時に、西洋流のアレンジ手法やグループ編成などを習得し、聴衆の嗜好性などを察知し、音楽プロデューサーやプロモーターなどとの独自のネットワークを築いた。彼らは、インドからの招聘音楽家という立場を越えて、自らのグループを率い、楽曲のアレンジや音楽家の人選、出演料の交渉や配分を行うようになった。そして、経済的な優位を背景に、インドにおいて異なるカースト集団から優れた音楽家をリクルートし、インター・カーストなグループ構成による新しい形態の音楽活動を行っている。かれらの活動がインド国内の地域社会にも環流し、ローカルな社会関係と音楽の演奏形態に変化を生み出している。このように本研究は、社会的弱者であったインド人楽士の欧米への移住が、インドの伝統的な音楽文化に変容をもたらしていることを明らかにした。また、多ジャンルの演奏家を傘下におくコンソーシアムの芸能集団「ラジャスタン・ルーツ」の活動について調査をおこない、インドの演奏家たちを海外音楽市場に送りだすシステム・戦術について理解を深めた。

#### インターネット技術のインパクト

上記の3つの移動軸において、地域間の結びつきが強くなっているのは、人の物理的な移動が頻繁になっているだけでなく、スカイプを用いた音楽の通信教育システムの開発が、遠隔地を恒常的に結びつけることに大きく貢献しているからである。スカイプ音楽教授法は、インド在住の演奏家が、北米に居住する学習者に1対1のレッスンを行う通信教育法として考案された。当初は、インド音楽学習との適合性が疑問視され、師弟関係に与える悪影響も危惧されたが、インド在住の演奏家にとっては大きな収入源となりうることもあり、短期間のうちに広く普及した。ま

た、音楽学校などが組織的に海外の弟子を募集したり、一人の師匠が複数の生徒を同時に教えるためのシステムが開発されるなど、形態の多様化が進行していることが明らかになった。スカイプ教授法は、音楽の効率的な学習を可能にするだけでなく、インド在住の著名演奏家と師弟関係を結ぶことを可能にしており、この象徴的資本を通して、在外アーティストたちがインド音楽・舞踊界へ進出する道が開かれている点は重要である。

#### 今後の課題

本研究で扱った事例は、インド音楽・舞踊のグローバル化現象のごく一部に過ぎない。各事例の移動軸は、対象とする地域、ホスト社会、音楽・舞踊ジャンル、演奏者の社会的地位や社会組織、宗教的背景などの面で大きく異なっており、安易な比較は有益ではない。しかし、特定の2地域間の移動軸に沿って、文化の環流の具体的な情報を収集する過程で、実際の人と芸能の移動は、当初想定した移動軸に限定されず、多方向的かつ多元的に進行していることを痛感した。インドーカナダ軸、インドーシンガポール軸の調査では、両者の接点に関する情報を共有することから、インドーカナダーシンガポール間の移動の様態について理解を深めることができた。このような作業を継続しながら、多元的かつ多方向的に進行するインド音楽・舞踊のグローバル化の全体像の解明に近づきたい。今後は、インドと世界各地に存在するインド音楽・舞踊の実践拠点間の移動や交流だけを分析するのではなく、それらの拠点間の環流現象にも注目して考察を続ける必要があるように思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

田森 雅一「インド音楽の社会的世界とその変容分析に向けて—『インド音楽家名鑑』の定量的把握」『埼玉大学教養学部紀要』49(1): 129-143、2013 査読無

竹村 嘉晃「私の研究テーマグローバル化の中で変容・還流するインド芸能に関する研究」『舞踊学会ニュースレター』4: 8-9、2013、査読無

[学会発表](計 11 件)

Terada, Yoshitaka. "A process-oriented applications of audiovisual media in safeguarding intangible heritage" International Symposium, *Safeguarding Music Heritage* (February 20, 2014), University of London, Goldsmiths College.

Takemura, Yoshiaki. "Traveling the

tradition: The life-history of a Malayalee dancer and the transmitting of Indian performing arts into Singapore in the 20th century." *Congress on Research in Dance (CORD), 2013 Annual Conference, Decentering Dance Studies: Moving in New Global Orders* (November 15, 2013). Riverside, California, USA.

寺田 吉孝「トロント市における南インド舞踊の実践」東洋音楽学会第 64 回大会、(2013 年 11 月 10 日) 静岡文化芸術大学。

田森 雅一「多様性の遺流と音楽伝統の変容—フランスとインドを結ぶ具ローカル化の諸相」東洋音楽学会第 64 回大会、(2013 年 11 月 10 日) 静岡文化芸術大学。

竹村 嘉晃「シンガポール社会におけるインド芸能の伝播と発展—マラヤーリー舞踊家のライフヒストリーを手がかりに」東洋音楽学会第 64 回大会 (2013 年 11 月 10 日) 静岡文化芸術大学。

Takemura, Hoshiaki. "Conflict between cultural perpetuation and environmental protection: The roles of worship, hunting and state in ritual performance in north Malabar, south India." (July 19, 2013) Jadavpur University's School of Media, Communications and Culture, Kolkata, India.

Takemura, Yoshiaki. "When the local divines goes abroad: The flourishing of Muthappan ritual and Malayalee diaspora communities in Singapore International Conventions of Asian Scholars (ICAS), the 8<sup>th</sup> International Convention of Asia Scholars: The East-West Crossroad (June 24, 2013). Macao.

寺田 吉孝「南インド音楽・舞踊の環流」シンポジウム「インドを奏でる人々 - その音楽受容と変容」(2013 年 1 月 19 日) 東京音楽大学。

Terada, Yoshitaka. "A circulatory flow of Indian music and minority nationalism." 7th International Conference of the International Council for Traditional Music (ICTM) Study Group on Music and Minorities (August 9, 2012), Zefat, Israel.

田森 雅一「インド音楽の近代化とマスメディア」国立民族学博物館共同研究「グローバル化の中で変容する南アジア芸能の人類学的研究」(2012 年 3 月 6 日) 国立民族学博物館。

田森 雅一「ジブシーのインド起源説再考—南アジア北西部の音楽職能集団を中心に」慶應義塾大学人類学研究会 (2011 年 11 月 29 日) 慶應義塾大学。

〔産業財産権〕  
○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

寺田 吉孝 (Terada, Yoshitaka)  
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授  
研究者番号：00290924

### (2) 研究分担者

田森 雅一 (Tamori, Masakazu)  
東京大学・総合文化研究科・学術研究員  
研究者番号：10592454

### (3) 研究協力者

竹村 嘉晃 (Takemura, Yoshiaki)  
国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員  
研究者番号：80517045

〔図書〕(計 0 件)